

A 隊 天狗の池

■ 記録

メンバー：

L 瀬上 (28E), SL 小林 (29I), 宍戸(20E), 樋口(27M), 日比谷(27C)

2018/7/26

- ・明大前ファミリーマート前集合 5:50, 出発 6:00, 小林は自宅付近で宍戸さんが pick up
- ・沢渡 9:30 着 taxi にて上高地着 10:00
宍戸さんの提案により車を利用することにより,
特急「あずさ」を利用した場合よりも1時間程度早く着く.
- ・荷物をあずけ, 小梨平発 10:20
- ・明神 11:00-11:10
- ・徳沢 12:05-12:35 昼食 明神, 前穂, 北尾根がみえる
- ・新村橋 13:10-13:20 奥又白谷を撮影
- ・横尾 13:45-14:05
- ・一ノ俣 14:55-15:05
- ・槍沢ロッジ 15:50 夕食 17:45 泊
夕方, 槍ヶ岳の穂先を見る.

入山時に クラカウ出身のポーランド人, フロリダ出身の米国人などと
出会う. ロッジでは, 米国, 英国, オーストラリアなどのチームと一緒にいる.

2018/7/27

- ・出発 5:45
- ・馬場平 6:25-6:40
- ・大曲通過 7:07
- ・2150m 7:40-7:55
- ・槍への分岐通過 8:20
- ・2450m 水平トラバース 8:35-8:50
槍が立派に見える. 大天井, 燕の稜線も見る
- ・天狗池 9:40-10:05
- ・天狗コル 10:50-11:25 北尾根, 北穂, 右俣テント場, KEAC のコルを
見る. 集合写真
- ・天狗池手前の雪田 11:50-12:15 氷ポカリを楽しむ.

- ・天狗池下 13:15-13:25
- ・2250m (槍への分岐を下って大岩の下) 13:50-14:00
- ・大曲下の沢 14:55-15:05
冷たい沢の水を飲む
- ・ババ平 15:30-15:40
- ・帰館(槍澤ロッジ) 16:10 夕食 17:00

高校山岳部が山に来る

長野県大町, 東京都立武蔵, 藤沢
韓国からの団体も, すれ違うと アンニョン ハセヨ と.

2018/7/28

- ・出発 5:45
- ・一ノ俣 6:20-6:30
一部ザックカバーをつける
- ・横尾 7:15-7:40
雨具着用 別パーティの 21M 安井氏、25I 宍戸氏と出会う.
- ・徳沢 8:35-8:50
- ・明神 9:40-9:50
- ・小梨平着 10:30
名古屋の東海高校の山岳部.
ロシア人も, 外国人が多い.

BBQ 紅茶会,

2018/7/29

朝食後 解散

沢渡より宍戸車で帰京

日比谷は浮世絵博物館に寄り, 「あずき」にて帰京.

他の4人は宍戸車にて東京まで.

2018年夏山感想

L 28E 瀬上伸一郎

OB 総会が終わると約 2 か月後に迫る夏山の候補地の検討となります。今年 は木曜から入山する案を考えました。また、今年 は 3 - 4 月にかけて腰の影響で足が痛く（診断では椎間板ヘルニア）いろいろストレッチを試みて平地歩行は可能までなっていました。槍を中心にいくつか案を考えましたが、なるべく平地歩行の長い、また急な登りも人っ気も避けられる魅力的なところということで槍沢からの天狗池往復案を選びました。この案で小林さんに打診したところ賛同を得え、概略案を作りメンバに声を掛けました。宍戸さん、日比谷さん、樋口さんと 5 名の隊となりました。入山が公共機関利用では槍沢ロッジの希望する到着時刻 16 時には苦しかったところ、宍戸さんが車を出していただくことで大変助かりました。

コースを決めて歩き出してから、このコースは 50 年振りだということ思い出し、あまり覚えてはいませんが懐かしく思いながら歩きました。

入山と外出日はともに文句のない天気。入山日は 6 時間、外出日は 10 時間とよく歩きました。心配していた腰からの痛みは入山中には殆ど出現しませんでした。下界でのストレッチが効いているとすると今後が楽しみです。

槍ヶ岳を中心として、槍沢と天狗原のカーブは緑、白、灰色というコントラストが今年の暑い夏では大変際立っておりました。また横尾右股のテント場を眺めることもでき、まさに夏山を堪能しました。

体力的には 8 時間くらいが妥当だったところですが、全員が 70 歳代の隊であることを考えるとオーバークをしたことは反省しております。

感想

SL 29I 小林武夫

計画当初は新穂高--槍平--槍ヶ岳--横尾--上高地ルートを瀬上さんと考えたが、腰痛、膝痛、高齢化を考え天狗池散策コースになった本隊である。

天気に恵まれ明神、前穂を見ながら入山し、翌日も槍沢カーブからの槍ヶ岳、天狗池からの槍ヶ岳が素晴らしかったです。

ここから更に足を伸ばしやつのことで天狗のカーブへ。その甲斐有であり横尾右俣カーブが真下に見え、北穂、前穂北尾根、槍ヶ岳と素晴らしい眺望を満喫できました。

右俣は 3 年生の時定着合宿をした所ですが、雨また雨の印象しかなく、これほど広く素晴らしい所かと今回再認識しました。

下山途中に日比谷さんアイデアの雪渓氷でのアクア氷がおいしかったです。

リーダーの瀬上さんはじめ皆様には大変お世話になりまして、ありがとうございました。

天狗隊感想文

20M 宍戸俊雅

メインの2日間で天候に恵まれ、気心の知れたメンバーと最高の山行をすることができました。

メンバー5人の平均年齢73歳という高齢隊ながら、一日10時間余りの行動ができたのは、LS・MSのおかげかなと感じています。

しかし、最初の目標の天狗池から、余裕があれば天狗のコルに上がって懐かしい右股を見下ろしたいという計画も無事達成できて大満足でしたが、やや欲張りすぎたかなと反省もしています。

途中ですれ違った若者のパーティーから、高齢者に対すると思われる称賛の拍手をいただいて、自分では若いつもりでも外から見ると高齢者以外の何物でもないのかと、妙な感動を覚えると共に、まだまだ登ってやるぞとファイトが湧いてきました。

今回驚いたのは、槍沢の小屋がリフォームされてきれいになり風呂にも入れたことでした。食事は改善されていませんでしたが・・・。

また今回、重いカメラを持って行ったのですが、時間的な余裕がなく天気も良すぎて、ありきたりな写真しか取れなかったのは残念でした。

最後に、年を取ると一緒に登る仲間が居なくなり単独行になりがちですが、年に3回くらいは仲間と一緒に登る機会があるといいなと思います。機会があれば声をかけてください。

天狗池

27M 樋口感想

長かったアメリカでの生活から日本へ戻り、本当に久しぶりの日本の山。期待と体力への不安が相半ばしながら、迎えたKSTACのOB山行。

車を出してくださった宍戸さんの車で上高地へ入り、歩き始める。

梓川沿いから眺める穂高の姿は記憶と変わらない。しかし、一ノ俣を過ぎ、槍沢へ向けて高度を稼ぎ始めると自分の体力が記憶と大幅に違っているのを再認識する。

翌日は、遠くの台風の情報に関わりなく快晴。久しぶりの槍ヶ岳を見ながら、天狗池までは順調に上った。一休みして、天狗のコルまでと欲張った登りで、足の筋肉が使い過ぎだと囁き始める。下りになると、案の定、足が思う様に動かなくなって、足元が不安定になっている。安全の為、ペースを下げるなど、パーティーの皆に迷惑をかけてしまった。

久しぶりの山は変わらぬ姿と、大きく変わった状況を経験させてくれた。より厳しくなった環境保護。綺麗になった山小屋。高齢者と外国人の増えた登山者。軽くなった装備品(特に靴)。殆どの場所で使えるGPS。等々、目を見張る変化ではあるが、装備品リストに書かれない重要装備が「体力」で有る事は、変わらない事の最右翼だった。

いずれにしても、このイベントの為に準備して頂いた幹事の方々。助けて頂いた仲間のお陰で、長らく忘れていた山の楽しさを再び味わえて、どの様に感謝するか?言葉も思いつ

かないほど嬉しかった。皆さん。本当にありがとう。

装備品リストにない装備を磨いて、またこの思いを経験したいものです。

皆様、よろしく、お願いします。

感想

27C 日比谷孟俊

久しぶりの槍穂周辺。槍沢は 50 年前の千丈沢合宿以来。天狗のコルと天狗の池は、横尾右俣の合宿以来 52 年ぶり。穂高も槍も雪が少ない。槍沢にも雪が残っていない。朝は半袖でも寒くない。温暖化が着実に進んでいるようだ。

外国人が大勢、槍ヶ岳や穂高を目指して登ってくる。米国、英国、オーストラリアからの人たちからなるパーティーや、クラカウ出身のポーランド女性、フロリダ大学からの学生、そして、すれ違うと「アンニョンハセヨ」と声がかかる韓国人パーティーなどなど、in-bound の climber や hiker たちだ。登山道にある警告や小屋の説明も多言語化している。

槍沢のロッジには PC が設置してあり、アメダスの情報や、雲画像、台風進路などが分かる。公衆電話はイリジウムを使った衛星電話。便利と言えば便利だが、4 年前にカナダの Shadow Lake のロッジで見つけた "There is no WiFi in the forest, but I promise there will be a better connection" というメッセージが思い出される。

ここ数年、山に高校山岳部が戻ってきているようだ。長野県の大町、東京の都立高校、藤沢や名古屋の高校生山たちと出会った。山登りが 3K と言われ敬遠された時代は終わったのではないかと。そして「山の日」を担いだ商業主義の波も押し寄せている。

計画を立てて下さったのは瀬上さんと小林さん。宍戸さんには車を出して頂いた。同期の樋口とは 48 年前に奥又白池から 3 峰リッジをザイル出して登って以来の一緒の山。LS/MS という共通の価値観を有する旧き仲間との山は、安心感があり、かつ、楽しい。皆様に感謝。



落石注意も 4ヶ国語